

第2節 吉田構内(吉田遺跡)の調査

1. 基幹・環境整備(ため池改修)工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内R-12区

調査面積 18㎡

調査期間 令和2年7月9日

調査担当 横山成己

調査結果

当工事は令和元年度に着手されており、同年度は予備発掘調査と立会調査を実施した。^{註1} 工事は2カ年計画であったことから、翌令和2年度に掘削が行われる池4堤体部を対象に、立会調査を行うことになった。

江戸時代中期(18世紀前半～中頃)に作成された「地下上申絵図吉田村清図」に描かれた「北サコ堤」はため池2とみられ、ため池4は江戸時代後期以降に築造されたと考えられる。

工事は、ため池4の堤体南東部を部分的に切り通すものであったが(図4)、表土下は全て盛土で、コンクリート片などが混入していることから、現堤体が近現代に構築されたものであることが判明した(図5、写真16)。

【註】

- 1) 横山成己(2023)「基幹・環境整備(ため池改修)工事に伴う予備発掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報-令和元年度-』, 山口
横山成己(2023)「基幹・環境整備(ため池改修)工事に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報-令和元年度-』, 山口



図4 調査区位置図



写真16 堤体土層断面(北東から)

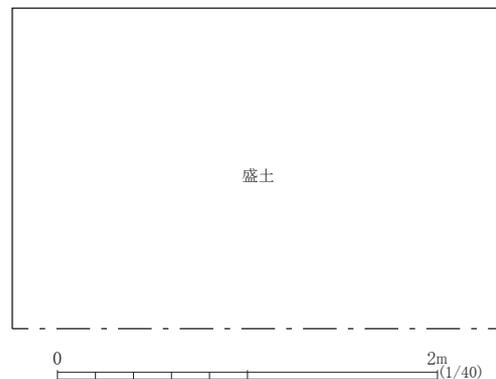


図5 土層断面柱状図

2. 農学部附属農場果樹園土壌改良作業に伴う立会調査



図6 調査区位置図

調査地区 吉田構内S-17・18区
 調査面積 19.25㎡
 調査期間 令和2年10月1日
 調査担当 横山成己 水久保祥子
 調査結果

農学部附属農場果樹園の南方から西方に位置する、動物医療センターから総合研究棟にかけての敷地は、既往の調査で古代官衙に関連する遺構・遺物が密に検出されていることから、果樹園敷地を含め、構内でも最も慎重な埋蔵文化財保護対応を要する地域の一つとなっている。ただし、敷地の大部分を占める果樹園については、小規模工事に伴う工事立会で遺構を確認することに^{註1}とどまっております。地下の様相が不明瞭のままに現在に至っているため、附属農場関係者の理解と協力により、当該年度より農作業や授業での地下掘削に対しても立会調査を実施することとなった。

調査対象としたのは、西側ブドウ園の東方で実施された土壌改良を目的とした掘削で、規模は南北方向に全長38.5m、幅0.5m、深さ0.35～0.4mであった(図6、写真17・18)。

調査の結果、掘削域の中央付近は攪乱を受けていることが判明し、北側と南側にて露出した地山面に複数の遺構が分布することを確認した(図7、写真19～22)。遺構埋土は黒褐色、または灰色～黄灰色を呈しており、後者は中世以降の遺構と推定される。前者は土の締まりが弱いことから、近現代の攪乱である可能性が高い。

当調査の成果により、果樹園では広域に遺構が分布することが明らかとなった。

【註】

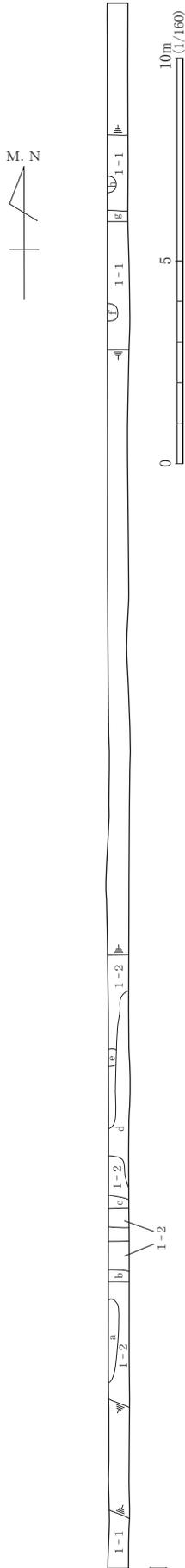
- 1) 横山成己(2011)「農学部附属農場内電源敷設工事に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成19年度—』, 山口
 横山成己(2014)「農学部附属農場果樹園側溝新設工事に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成22年度—』, 山口



写真 17 調査区全景(南から)



写真 18 調査区全景(北から)



【遺構検出層(地山)】

- 1-1 灰色(7.5Y6/1)シルト(マンガン斑あり)
- 1-2 明黄褐色(2.5Y7/6)シルト

【遺構埋土】

- a 黒褐色(2.5Y3/1)シルトに明黄褐色(2.5Y6/6)シルトのブロック混じる
- b 黄灰色(2.5Y5/1)シルト
- c 黄灰色(2.5Y5/1)シルト
- d 黒褐色(2.5Y3/1)シルトに明黄褐色(2.5Y6/6)シルトのブロック混じる
- e 黄灰色(2.5Y5/1)シルト
- f 灰色(10Y4/1)シルトに明黄褐色(2.5Y7/6)シルトのブロック混じる
- g 黄灰色(2.5Y5/1)シルト
- h 灰色(10Y4/1)シルトに明黄褐色(2.5Y7/6)シルトのブロック混じる

図7 調査区平面図



写真 19 遺構g・h検出状況(東から)



写真 20 遺構d・e検出状況(東から)



写真 21 遺構a検出状況(東から)



写真 22 調査区南端部土層断面(北東から)

3. 農学部授業(生物資源環境科学基礎実験)に伴う立会調査

調査地区 吉田構内Q-15、T-17区 調査面積 1 m²
 調査期間 令和2年10月26日 調査担当 横山成己

調査結果

農学部開講の授業「生物資源環境科学基礎実験」では、毎年吉田構内東～南東部に位置する農学部附属農場敷地内、果樹園と実験水田の2箇所^{註1}で人力掘削を行い、本学移転前の土地利用である棚田耕作土の土壌観察を行っている。

前述したように、広域に及ぶ果樹園敷地の地下の様相は、大部分が不明確である。実験水田敷地^{註2}においては、平成9年度に5号田にて実施した試掘調査^{註1}や、水田水捌け改善のために実施した立会調査^{註2}において、遺構や河川跡、遺物包含層を確認しており、当地が道祖ヶ峠から西に伸びる谷地に位置することが判明している。一方で、高所である1号田は、本学統合移転時の造成工事により大きく削平されていること、2号田についても、南方は現耕土直下が岩盤風化層であることが確認されている^{註3}。

令和2年度の授業では、北側ブドウ園の北西側(A地点)と、実験水田5号田北西側(B地点)の2箇所(図8)で掘削が行われたことから、授業後に調査を実施した。

A地点では現地表下80cmの掘削が行われ、層厚10cmの表土の下位に、層厚40cmの造成土、層厚30cmの旧耕土を確認した(図9、写真23)。旧耕土下位にわずかに見られた黄灰色(2.5Y6/1)シルトは旧床土と推測される。

B地点では現地表下70cmの掘削が行われ、層厚15cmの耕土下に、層厚20cmの床土と、薄く遺存する旧耕土、層厚5cmの旧床土とみられる黄灰色(2.5Y6/1)シルトを確認した。その下に堆積する層厚20cmの黒褐色(10YR3/1)シルトは遺物包含層である可能性が高く、その下位に認められた層厚10cm以上の灰色(7.5YR5/1)砂は河川堆積とみられ、平成9年度の試掘調査で検出された河川1または2の下流部と推定される(図9、写真24)。

本学の吉田地区統合移転は昭和41年(1966)に始まるが、最初期に移転した農学部の関連施設は、埋蔵文化財調査を経ずして造成工事が行われたことから、構内面積のおよそ3分の1を占有している^{註4}に



図8 調査区位置図

も関わらず、地下の埋蔵文化財情報が不足したまま現在に至っている。本件のような小規模掘削においても、地下の情報を丁寧に拾い上げることで、将来的な埋蔵文化財保護に繋げて行きたい。

【註】

- 1) 田畑直彦(2004)「農学部バイオ環境制御施設新営に伴う試掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報XVI・XVII』, 山口
- 2) 横山成己(2013)「農学部附属農場水田暗渠排水工事に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成21年度－』, 山口
- 3) 横山成己(2019)「農学部附属農場水田排水路工事に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成26年度－』, 山口
横山成己(2020)「農学部附属農場水田排水路工事に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成27年度－』, 山口
- 4) 過去に実験水田が設けられていた構内北部の駐車場(キャンパスマスタープラン2021「社会連携ゾーン」)を含む。



写真 23 A地点土層断面(西から)



写真 24 B地点土層断面(西から)

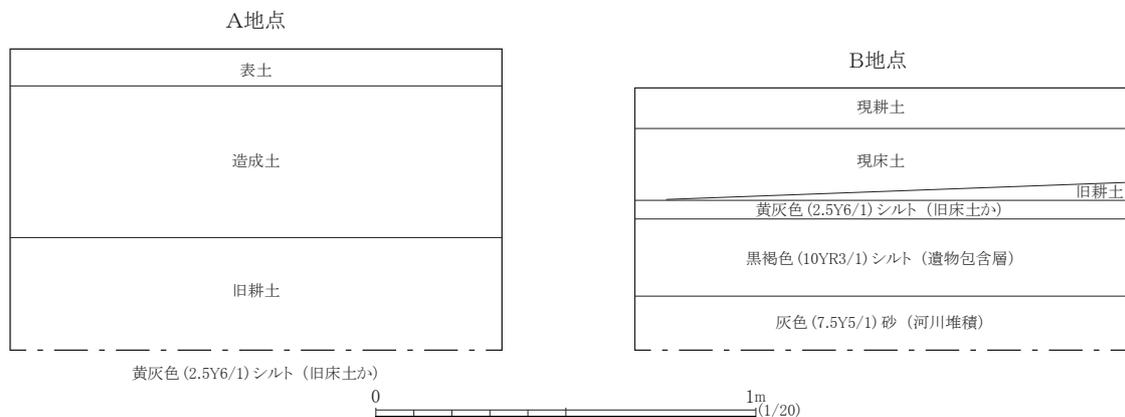


図9 A・B地点土層断面柱状図

4. 農学部附属農場ぶどう園植樹作業に伴う立会調査



図10 調査区位置図

調査地区 吉田構内R・S・T-17・18区

調査面積 13m²

調査期間 令和2年12月18日

調査担当 横山成己 水久保祥子

調査結果

農学部附属農場果樹園土壌改良に伴う立会調査中に、果樹園担当職員より、ぶどう苗植え付けのための掘削について相談が寄せられた。小型油圧ショベルでブドウ園に11箇所の掘削を行うという内容であったことから、これについても掘削時に立会調査を実施することにした(図10、写真25)。

掘削は深さ30~40cm程度で、13箇所において行われた。掘削坑はバケットポイントにより不整形となったため、記録作成が困難であったが、以下に各地点の概要を記しておく(図11~14、写真26~38)。

掘削が表土および造成土内に止まったのは、第1~3、10、11、13地点の6箇所であった。

第4地点の下位に確認された黄灰色(2.5Y6/1)は、土質から中世以降の遺構埋土である可能性がある。

地山状の地層が露出したのは、第5~9、12地点の6箇所である。このうち第6、8、9地点では部分的



写真25 掘削状況(北東から)



写真26 第1地点土層断面(南から)



写真27 第2地点土層断面(南から)



写真28 第3地点土層断面(南から)

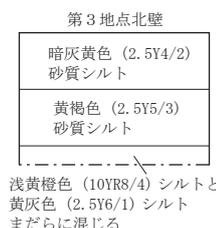
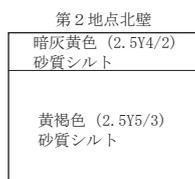
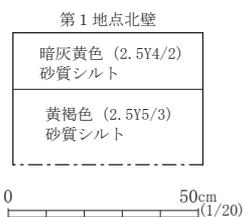


図11 第1~3地点土層断面柱状図



写真 29 第4地点土層断面(南から)

写真 30 第5地点土層断面(南から)

写真 31 第6地点土層断面(南から)

第4地点北壁

暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質シルト
黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質シルト
黄橙色 (10YR7/6) シルトと 黄灰色 (2.5Y6/1) シルト まだらに混じる
黄灰色 (2.5Y6/1) シルト

第5地点北壁

灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質シルト
黄褐色 (10YR6/8) シルト (地山)

0 50cm (1/20)

第6地点北壁

灰黄褐色 (10YR5/2) シルトに 黒色 (2.5Y2/1) シルトの ブロック混じる
明黄褐色 (2.5Y7/6) シルト (地山)

図 12 第4～6地点土層断面柱状図



写真 32 第7地点土層断面(北から)

写真 33 第8地点土層断面(西から)

写真 34 第9地点土層断面(東から)

7トレンチ南壁

黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質シルト
黄褐色 (10YR5/8) シルト (地山)

8トレンチ東壁

灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質シルト
橙色 (7.5YR6/6) シルト (地山)

0 50cm (1/20)

9トレンチ北壁

灰褐色 (10YR5/2) 砂質シルト
にぶい黄褐色 (10YR7/4) シルト (地山)

灰黄色 (2.5Y6/1) シルトに
にぶい黄褐色 (10YR7/4)
シルトのブロック混じる
(肥料土)

図 13 第7～9地点土層断面柱状図

に地山が深く掘り込まれていた。これらは近年の掘削痕とみられ、附属農場職員による暗渠の設置や、肥料の溝埋めなどが原因と推測される。

今年度の調査により、ブドウ園敷地では比較的浅い深度で地山が露出することが明らかとなった。附属農場設置以降、およそ半世紀が経過し、農作業による様々な掘削が行われたようであるが、未だ相当数の遺構が埋存するものと予想される。今後とも慎重な対応を心がけたい。

なお、調査終了後に果樹園担当者から、次年度以降の果樹(モモ)植え替えについて相談があった。附属農場は小型油圧ショベルバケットのツース盤を所有していないとのことであったので、今回の反省を踏まえ、次年度以降は植え替え地点に対し人力掘削による埋蔵文化財調査を実施することにした。



写真35 第10地点土層断面(南西から)



写真36 第11地点土層断面(南東から)



写真37 第12地点土層断面(南東から)



写真38 第13地点土層断面(北西から)

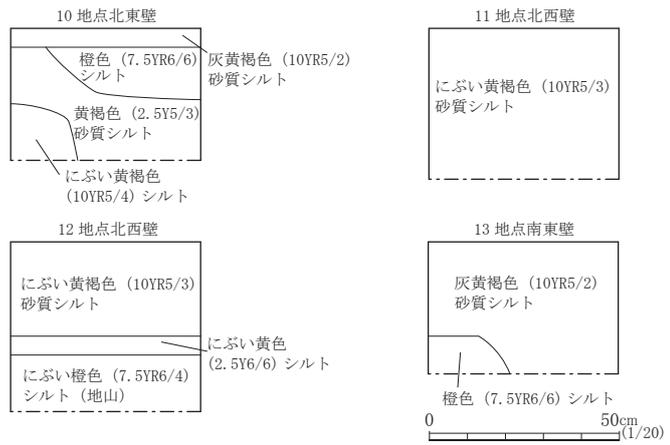


図14 第10～13地点土層断面柱状図

5. 学生会館(仮称)新営工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内G-13区

調査面積 2㎡

調査期間 令和2年11月16日

調査担当 横山成己

調査結果

令和元年度に、吉田構内正門南西側に位置する排水処理センター生活排水施設および廃棄物倉庫を解体し、学生会館(仮称)^{註1}を新営する計画が立案され、同年度中に建物計画地を対象に予備発掘調査を実施した。調査では弥生時代に機能した河川跡1条を検出したが、遺物の包含が希薄であり、他に遺構も認められなかったことから、計画地に対する埋蔵文化財保護対応を終了した。

令和2年度は、建物の北西側に県道61号線(山口小郡秋穂線)と接続する架橋の新設工事が行われることから、本学構内敷地側の基礎掘削時に立会調査を実施することとなった(図15)。

掘削は、吉田構内の北西縁部を南西に流れる九田川沿いで行われ、掘削深度は現地地表下1,700cmに及んだ。土層断面調査を実施したところ、層厚1,200cmの造成土下に、層厚10cmの灰色(10Y4/1)砂質シルト(旧耕土)、層厚8cmのにぶい黄色(2.5Y6/3)シルト(旧床土)を確認した。その下位に層厚5cmの灰黄褐色(10YR6/2)シルト、層厚3cmの褐灰色(10YR6/1)砂混シルトを確認したが、遺物の包含は認められなかった。最下部に検出した層厚25cm以上のにぶい黄橙色(10YR6/3)シルトが地山とみられる(図16、写真39)。

【註】

- 1) 現名称は「Uni E'terna 山口吉田学生会館」で、山口大学生活協同組合により学生用マンションとして運営されている。
- 2) 横山成己(2023)「学生会館(仮称)新営工事に伴う予備発掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館—令和元年度—』, 山口

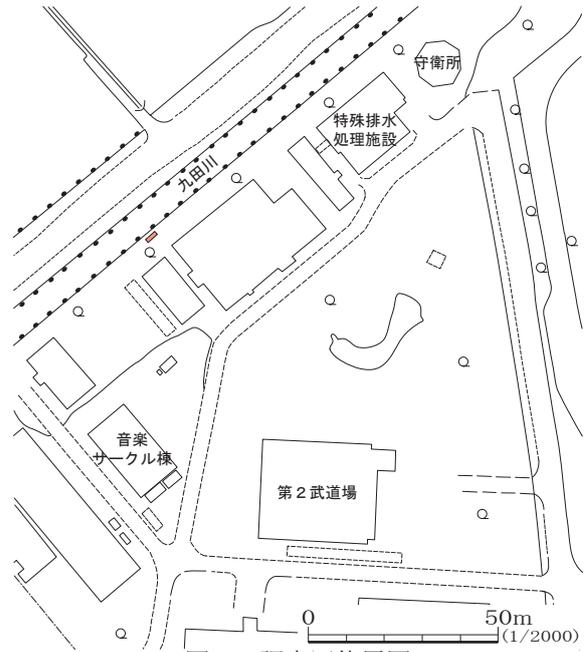


図15 調査区位置図



写真39 北西壁土層断面(北東から)

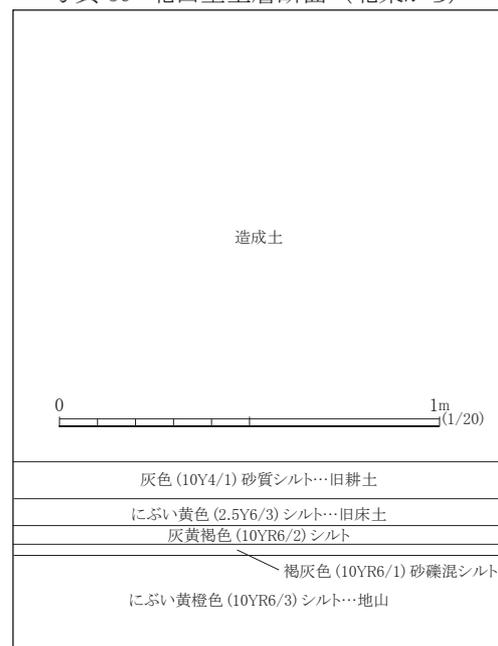


図16 土層断面柱状図